

菊川における水防災意識社会を再構築するための取組方針

- 平成27年9月関東・東北豪雨災害により、鬼怒川の下流部では堤防が決壊するなど、氾濫流による家屋の倒壊・流失や広範囲かつ長期間の浸水が発生した。また、これらに住民の避難の遅れも加わり、近年の水害では類を見ないほどの多数の孤立者が発生した。
- このことから、国土交通大臣から社会資本整備審議会会長に対して、「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について」が諮問され、平成27年12月10日に「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について～社会意識の変革による「水防災意識社会」の再構築に向けて～」が答申された。
- 菊川流域においては、この答申を踏まえ、「水防災意識社会」の再構築に向けた取組として、地域住民の安全・安心を担う沿川の菊川市、掛川市、静岡県、静岡地方气象台、国土交通省中部地方整備局で構成される「菊川水防災協議会」（以下「本協議会」という。）を開催し、減災のための目標を共有し、平成32年度を目処にハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進することとした。
- 本協議会では、菊川の地形的特徴や被害状況、現状の取組状況の共有を図り、以下の課題を抽出した。
 - ・ 菊川は、流域面積158km²と比較的小流域であり、流域に降った雨が、川に短時間で流れ出るため、洪水の到達が早い特徴がある。
 - ・ 河口部の海岸部沿岸には海岸砂丘が形成され、堤内地盤が高くなっているため、下流域一体は窪地状の地形を有し、内水による浸水が起こりやすい特徴がある。

- ・ 浸水被害に対しては、住民等の早期の避難行動が必要となるため、避難行動に資する住民の防災知識の向上と自ら避難判断するための情報提供が重要となっている。
- ・ このような特徴的な地形においては、浸水時間の長期化も懸念されることから、堤防整備等のハード対策に併せ、一日も早く浸水を解消するため、大規模水害を想定した排水計画の作成等が重要となっている。

○ この課題に対し、本協議会においては、洪水の到達が早いことや、窪地状の地形の特徴を踏まえ、菊川で発生しうる大規模水害に対し、「水防災を意識して命を守る」「迅速かつ確実な復旧を行う」を目標として定め、平成32年度までに各構成員が連携して取り組み、「水防災意識社会」の再構築を行うこととして、以下の主な取り組み内容を取りまとめたものである。

■ 水害リスクが十分に認知されておらず、大規模水害に対する住民意識の向上を図る必要があることから、想定最大外力を対象とした洪水浸水想定区域図やハザードマップの策定・周知や小中学校における防災教育の実施や講師となる方へのセミナーの開催。

■ 下流域一体は窪地地形のため、氾濫が生じた場合に湛水の長期化が懸念されることから、早期に氾濫水を排水するための排水計画を策定するほか、排水計画に基づく排水訓練を実施。

■ 流域に降った雨が川に短時間で流れ出るため、避難行動の判断に至るまでの時間を短くすることが必要なことから避難勧告の発令等に着目したタイムラインの策定。

■ 洪水を安全に流下させるための堤防整備や河道掘削に加え、危機管理型ハード対策として堤防天端の保護等を実施。

○ 毎年出水期前に関係機関が一堂に会し、進捗状況を共有するなどフォローアップを行い、水防災意識を高めていくこととしている。